

ポーターから
奄美を考える

②

岩下明裕

ター(分断)が至るところに生まれたが、同時に新しいつながり(オンラインでの連携)も生まれた。こういう催しをもっとやってほしいという声や印象に残った。私たちはこれまで札幌を中心に数多くのセミナーを主催してきたが、足を加盟し、毎年、持ち回りで

APANという、わが国の境界地域の自治体が連携したネットワークがある(代表・竹富町、事務局・北大スラブ研)。北は礼文町、稚内市、根室市から小笠原村などに加え、対馬市、五島(福岡)と釜山を往来するJR九州高速船が対馬の比田港に寄港する際に福岡・対

滞在型観光の促進、雇用機会の拡充などを盛り込んだ有人国境離島法(2017年4月施行)の制定や、不可能と目されていた国際航路便への国内旅客の混乗(福岡と釜山を往来するJR九州高速船が対馬の比田港に寄港する際に福岡・対

コロナでつながる日本の「端っこ」

運べるのは札幌近郊、もしくは飛行機に乗って関西や東京からわざわざ駆け付けられる方々に限られています。今回、特にしまで暮らす人々が喜んでくれた。いろいろな情報を身近に接することができると。

セミナーを行う。各自治体の実務者と私たち研究者が全国から集い、隣国との関係、環境、交通、教育など

馬の国内間の乗を認める措置の実現などに、このネットワークは貢献した。

昨年9月に礼文町に



セミナー後のフィールドワーク＝礼文島 (撮影：HELICAM(株))

望されていた。その復活便を与那国から飛ばそうというのが、私たちの狙いであった。

だがコロナの蔓延で、チャーターは早々に断念。秋の与那国セミナーも来年に延期。秋だったら、できるかもしれないのになんでそんなに早く諦めるのかって？ 私たちのセミナーは全国の島や「端っこ」から人々が参加します。島で「濃厚接触」して、また全国に散ります。これって、島に

つながりもあるのです。オンラインなら融通がききますから、関係する自治体の首長・副首長をそれぞれの地域からつないでセミナーをやりましょう！ テーマは「感染症と境界地域」。利点は日本の(いや世界の)どこからでも参加できること。はい、奄美の皆さん、また見てください。そして来年は与那国でみんな「濃厚接触」しましょうね(できることを希望します)。

今年10月に与那国町で開く。与那国から竹富町の波照間島にチャーター便を飛ばすツアーを造成し、日本最西端と最南端の有人離島が続き、飛行場の再開が切

を結ぶ企画も進んでいた。石垣からの高速船の欠航率が高い波照間島だが、ここ

今年10年、航空路線がない状態からいったでしょ。新しい

今年是指をくわえてるだけか？ いえいえ、だ

ここまで書いて気が付いた。なぜ、私が奄美に魅かれたのか、を忘れとった。まあ、急ぐこともない。いまはスローライフ。ではまた来月。

(北海道大学教授)

先日、「奄美に旅し、考えたこと」というテーマでオンラインセミナーを北大の会場から配信した。65人が熱心に視聴してください。技術的なトラブルは向もなく、佐渡、岩手、鹿児島在住の方からコメントを頂いた。奄美の方も多く視聴されており、好評であった。「コロナで新しいボー

感想をいくつかもらった。「コロナで新しいボー

境界地域ネットワーク

低廉化、輸送コストの支援

より、一般の参加も可)。

今年10年、航空路線がない状態からいったでしょ。新しい

今年是指をくわえてるだけか？ いえいえ、だ

ここまで書いて気が付いた。なぜ、私が奄美に魅かれたのか、を忘れとった。まあ、急ぐこともない。いまはスローライフ。ではまた来月。

(北海道大学教授)